

鈴鹿市民の コミバスをよくする会ニュース

(第30号・2020年3月発行)

発行:(略称)コミバスをよくする会
事務局:辻井良和 方
〒510-0234 鈴鹿市江島本町31-36
電話 059-386-0529 FAX 059-386-0646

すべての人が利用 できるコミバスを!

2月18日、12,113筆の要求の詰まった署名を末松市長に届けることができました。

私の住んでる地域は、神戸に行くにしても、四日市に行くにしても、バスの運行は2時間に一本です。車の運転できない人にとっては本当に不便です。TV報道で、高齢者の交通事故が頻繁に流れ、運転免許返納の機運も広がっています。高齢者になるといつまでも車を運転できません。

市長さんに向けての署名を自由ヶ丘の「いきいきサロン」でお願いしたところ、参加者全員の方が署名をしてくれました。また、そのなかで、持って帰って署名を広げてくださった方もいました。地域の皆さんにとっても、バスの運行はとても切実な要求だと改めて感じました。

末松市長との懇談会の席で、市長さんは、今年度、まづ一ノ宮でバスの実証実験を始めると言われ、この2月議会で公共交通の実証実験の予算が750万、計上されました。いよいよ実証実験が始まるのです。

今後は、バス停が歩いて行ける距離にたくさんでき、



乗り継ぎもスムーズにできるなどの市民のだれもが利用できるような運行システムを考えていくことが必要だと感じています。私は、事務局の一員として、玉城町のオンデマンド(電話予約制)を見学してきましたが、そんなに広くない一室で、2人の人でかかってくる電話を受け、バス運行をコンピューターで管理していました。鈴鹿市もこの方法でやれるのではないかと思っています。

たくさんの地域の方が無料のバスの運行を待ち望んでいます。早期に全市で無料バスの運行が実現することを願っています。(萩森 美知子)



発車オーライ

★末松市長との4回
目の懇談が2月18日
に実現し、私達の運動

は目標を前方に見据えて進む段階にきました。市長さんからも実現に向かう決意が話されました。

★末松市長さんからは、私たちの意見を尊重すると言った言葉もありましたが、今年度予算に計上された内容とは大きな食い違いがあります。

★私たちの構想は、各行政区を中心にワゴン型のオンデマンドバス(電話やスマホで予約して乗る地域巡回バスと、市の中心部を循環するバスを一体の交通システムを提案しています。そしてそのバスは「無料」が前提です。

★もう一つ大事なことは、このオンデマンドバスの運行には、利用者の乗る停留所と行き先の停留所を決め、更に途中で乗り込んでくる別の利用者の、乗る場所と降りる場所を決めて、その順番を間違えなく運転手に伝える、運行管理のコンピューターシステムがどうしても必要です。玉城町で元気バスが成功しているのは、東京大学が開発したコンピューターシステム「コンピニクル」が使われたからです。

★末松市長の実行に移すという気概に込めて、いよいよ私たちのノーハウをきちんと伝える仕事が大変な時期を迎えました。

★富士登山に例えるなら、やっと五合目まで来たが、これからがいよいよ油断できない石ころと砂利混じりの道を、一步一步、細かいことの合意を積み重ねなくてはならないようです。

★その力は、市長さんへの1万2千を超え、
「無料バスを走らせて下さい」の要請書の重さ(熱意)であり、市民の声でしょう。



市長との懇談 五合目に至る

たくさんの方に市長宛の要請署名を集めて頂き、懇談の席で、12,113人の署名を末松市長に手渡しました。市長も「1万を超える署名、重く受け止めます」と言って受け取ってくれました。

4回目となる今回の懇談では、末松市長からかなり具体的な検討が行われている事が話されました。

地域の巡回バスは、タクシー型ではなく10人乗り程度のワゴン型の車がよいと思っていること、利用料は無料が良いと考えているが、既成のバスに乗り換えるには、三重交通バスの料金も無料にするかどうか検討しているとか、運転手の確保が出来るかどうか、市内にたくさんある団地の住民の高齢化に対応して団地内に巡回バスを優先してみたいとかの話が出てきました。

検討が始まったとの印象は受け、一歩進みつつある感はしましたが、この日の話からは、私たちの提案を詳しく検討しているという印象ではなく、市長は私たちの提案に沿って検討を命じたが、職員は頭の切り替えが出来ないまま、従来の他都市の物まね段階から進まず、頭の切り替えが出来ていないという印象でした。

私たちの提案は、無料のオンデマンド地域巡回バス

と、中型(現在のコミバス程度)のバスによる定時定点の循環型を組み合わせ、誰でも乗れる全市内をカバーする鈴鹿市直営のバスですから、このセットを崩しては成功しないものだと伝えました。

もう一つ大事なことは、このシステムを円滑に運用するには、すでに確立している「コンビニクル」と呼ばれるコンピューター運用システムを活用することです。これ抜きには、たくさんの方のバスの利用者の、乗り降りの順番を正しく処理することは不可能です。

市長の話しにはこの点が欠けていました。巡回バスは無料にするが、既存の三重交通バスとの連絡運用という前提からは、このコンピューターシステムは浮かんでこなかったのでしょうか。この点の理解を進めることが残された課題に感じました。まだ職員の頭の洗濯が出来ていないと感じました。

1万2千人を越える市民の熱い願いに応えるには、この大きな構想を解決するだけの知識と研究の熱意が必要です。4月からの試行を考えるなら、これから短期間に、私たちの構想を全体として理解して貰う働きかけが必要だと感じました。

山登りは5合目を越えたかどうかの地点です。もう一押し運動が大事な時期を迎えています。

今後の一層の具体的な検討の場を要請していきたいと思えます。(辻井 良和)

鈴鹿市民のコミバスを良くする会第5回総会が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。本市におきましては今後更に進展する人口減少や少子高齢化を見据えますと通勤・通学・通院や買い物など市民の皆さまの日常生活を支える移動手段の確保が益々重要になってまいります。

昨日 移動手段にお困りの方のお声としまして本会を中心にお集めいただいた1万2千通の署名を拝受いたしました。私自身署名を手に取り その重みに改めて利便性の高い交通サービスを整備していく必要性を認識したところでございます。

こうした課題に対し 引き続き

鈴鹿市民のコミバスを良くする会の皆さまをはじめ市民の皆さまのご意見を頂戴しながら本市に相応しい総合的な交通体系を構築し公共交通の利便性向上を図ってまいります。考えておりますので 今後ともよろしくお願い申し上げます。結びに貴会の益々のご発展と本日お集まりの皆様の健勝とご多幸を祈念いたしました。私からのメッセージとさせていただきます。

令和二年二月十九日

鈴鹿市長
末松則子

市長より「期待に応えられるように頑張りたい」と、嬉しい発言

コミバスをよくする会の総会が、2月19日にジェフリーホールで開催されました。総会は2年毎で、辻井会長より報告があり、橋詰事務長より経過報告と会計報告もありました。

総会の前日の18日には1万2,000余りの署名を、末松市長に手渡し、その署名の重みをしっかり感じ受け止めて頂きました。市長さんとの懇談では、市長自らが地域に出かけた時に、何人かの市民の方より「コミバス署名したでな、市長よろしく頼みます」と声をかけられたことなどに、市民の方の思いの強さを感じてみました。「その期待に応えられるように頑張りたい」という、嬉しい発言をお聞きすることもできました。

私たちは、成功している玉城町のように、誰もが、いつでも、どこへでも、無料で出かけられる生活交通が、1日でも1時間でも早く実現されることを強く願っています。(田中 美代子)



署名活動で感じた痛切な声 末松市長に託す思い

2月18日、末松市長とコミバスの会の懇談がおこなわれ、昨年秋以降取り組んできた署名を提出した。1万2千余の署名に込められた思いを市長始め、市の幹部のみなさんが真摯に受け止めていただくことを願うばかりだ。

署名活動には私も何度か参加したが、その中で聞いた日々の病院通いや買い物などに難儀する高齢の方々の声は痛切だった。

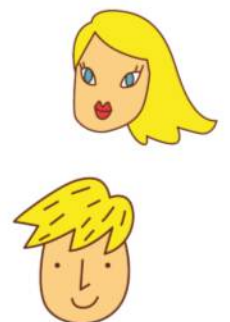
一例を紹介すると「最寄りの近鉄駅まで歩き、電車を降りた後さらにバスで病院まで通っている。お金も労力もたいへんです」そうおっしゃってオンデマンドのようなバスが走るなら、どれだけ生活が便利になるか切々と話しておられた。

世論の盛り上がりもあって今度ようやく実証実験が行われるはこびとなった。それ自体は結構だが「帯に短し、たすきに長し」ということわざがあるように中途半端な運送体系では市民ががっかりするばかりである。

「末松市長のもとで暮らしていてよかったなあ」と多くのみなさんが実感できるバスがこの街の隅々を走る日を心待ちにしている。(谷口 茂)

CNSニュースでも放映されました。

下のQRコードを読み取ると、
スマホで見ることが出来ます。



無料のコミバス運行を

鈴鹿の市民団体 市長に署名提出



1万2000筆余の署名を末松市長に手渡す
辻井会長(左から2人目)＝鈴鹿市役所で

市民団体「鈴鹿市民のコミバスをよくする会」は運賃無料のコミュニティバスを求める署名活動で一万

市内には民間の鉄道やバ

路線があるほか、市が三重交通に委託して有料のコミュニティバス「CIBUS」を運行している。市は、これら既存の公共交通機関を補完する手法を模索しており、新年度に一ノ宮地区でワンボックス車を使った乗り合いタクシーの実証実験を予定している。

一方、会は市内を十地区に分け、それぞれワンボックス車を使った予約制のバスを運行させ、各地区を結ぶように中型バスを循環させる交通体系を提案。運賃は無料なら経理負担が少なく、専門的な免許を持つ運転手の確保も不要なため、運行経費全体では安く上げると主張している。

会では、この主張の賛同を求めて八月十一日に署名を集めた。辻井良和会長(八巴は「鈴鹿市にふさわしい実現の方法を調べ、提案した。無料が大事で、玉城町や愛知県刈谷市はそれで成功している」と訴えた。

末松市長は「署名の重みを感じる。地域の事情に応じた使ってもらえるルートにしないとけない」と要望に一定の理解を示しつつ、「運賃の無料は乗客すべてか、高齢者のみかなど詰めた議論が必要」と述べた。(片山健生)

12,113筆に託された 市民の思いの強さ、実現を

2月18日、コミバス署名12,113筆を市長に提出し、懇談しました。3ヶ月半の署名活動で、私たちも市民の方の思いの強さを改めて感じましたが、その思いを直接市長に伝えました。

末松市長からは、昨年秋に、地域の集まりなどに出かけたとき、何人もの市民の方から「コミバスの署名をしたでな。市長さんよろしく頼みます」と声をかけられたなど、署名の広がりや市民の方の思いの強さを感じています。その期待に応えるよう頑張りたいと、嬉しい発言です。市長の発言からいくつかメモしました。この1年間で市長も行政も真剣に検討をすすめていただいていると感じました。

★「乗合タクシーは、隣に誰が座るか分からないので息苦しいという声がある」→その通りです。亀山市でもうまく行っていません。

★「会の皆さんと、中央環状と地域巡回のイメージに大きな違いはないが、地域巡回では路線バス方式がいいのか、オンデマンドがいいのか検討がしている」→いくつかの方法を検討いただいているのは嬉しいですね。でも、鈴鹿市は広い街で、地域も広いので、オンデマンドが効率的で利便性が高いと思います。また、無料と有料では利用人数に2倍以上の差がでるでしょう。

★「例えば地域巡回を地域づくり協議会に任せた場合、持続性に不安がある」→地域づくり協議会に任せるのはムリがあります。玉城町のように社会福祉協議会かNPOに委託して雇用契約をハッキリさせ、行政が監督できれば、持続的運行は難しいことではないと思います。

★「既存の三交バス路線との関係や、新しいシステムを交通事業者へ委託したときの経費や路線等々も検討している」→中央環状は交通事業者への委託も選択肢としてありえますが、その場合でも実験運行は無料でないと難しいし、どういう影響が出るかは机上でいくら

考えても結論はでないので、まず無料で実験運行することにより、三交バス路線にどう影響がでるのか？課題は何か？見えてくると思います。

コミバスの会として今後どういう運動をすすめるかは、4月頃に谷口副市長さんとじっくり懇談して考えていきたいと思います。署名活動にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。引き続き実現めざしてチカラをお貸し下さい。ご意見をお寄せ下さい。(橋詰 圭一)

新交通システム実証実験に思うこと

2月議会に上程されている新年度予算案に、新しい公共交通のための2つの事業が提案されています。

いよいよ実証実験が始まるのは歓迎すべきことです。新しい事業を始めるとき、机上の議論より、実証実験を行わないと解らないことが多々あるからです。

担当部局では1年前より、「乗合タクシー」を前提とした方式を模索し、昨年秋には一ノ宮地区で住民アンケートを実施しました。その結果が今年2月に公表されましたが、乗合タクシーを利用したいという方は極めて少なく「現時点での導入は難しい」と、住民に回覧板で報告されました。

今回、新年度予算に提案されている運行事業費750万円は、一ノ宮地区において運賃300円でCバスのように路線を決めて運行しようというものです。西部Cバスも通勤・通学時間帯は乗客も多いですが、日中の利用は限られています。予算案でも1日15人程度の利用しか見込んでいません。人口密度の高い市町では路線バス方式も利用が多いですが、鈴鹿市のように民家が散らばった市町では、「空気バス」になる懸念もあります。

先日の末松市長との懇談では、路線バス形式か、デマンド形式か、有料か、無料かなど検討をすすめ、実証実験を行いたいとのことでした。

鈴鹿市では10年遅れで検討され実証実験を行うのですから、他市の成功と失敗に学び、他市よりも誇れる事業をすすめてほしいと思います。

コミバスをよくする会では、区内を運行するワゴン車は、路線バス形式よりも、電話予約で走らせるデマンド交通(停留所は自治会のごみ集積所など)が効率的で、利用も多く望めると提案しています。

またデマンド交通は人口2万人位の地域が効率的といわれていますので、仮に一ノ宮地区で実証実験を行うにしても、一ノ宮と神戸地区を中心に、図書館や保健センター、中央病院も運行範囲に入れることで多くの市民に利用されるでしょう。(橋詰 圭一)

